

# 小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文



平成 3 1 年 2 月 号  
No. 5 3 3

## 社会科見学 「つ・く・る」 「はたらく」

校長 佐藤 正文



〔社会科見学6年生〕

「いらっしゃいませ。」「毎度ありがとうございますございました。」私の実家は、お店を営んでいたもので、よく手伝いをしながらこの言葉を口にしていました。最初はとても恥ずかしかったことを覚えています。「働く」を学んだ最初かもしれません。今では、よい思い出、よい経験として両親に感謝しています。

今年度の社会科見学（3年生以上）が先日終了いたしました。見学先の施設等は、3年生：練馬区立ふるさと文化館、板橋市場、4年生：まいまいず井戸、羽村取水堰、羽村郷土博物館、小作浄水場、5年生：SKIPCITY 映像ミュージアム（川口市）、おもしろ消しゴム(株)イワコー、6年生：憲政記念館、国会議事堂でした。

今回の社会科見学の学びについてテーマ「つ・く・る」として、子供たちに話をしました。

つ 積み重ねてきた 技・技術の数々  
く 暮らしをよくするために 夢をもち考えている  
る ルールを守って はたらく方々から  
たくさんのことを 学ぶことができました

社会科見学では、学習で学んだことやこれから学ぶことについて実際の場所に行き、五感を使って深めていきます。また、子供たちは見学先で働く方々と接し、様々な感想をもちます。「どうしてだろう」「なぜかな」等々、自己を振り返ることで、新しい発見の場となります。

「はたらく」には、「傍楽」（周りにいる人々たちを楽しませてあげる）という意味もあり、学校はもちろんですが、世の中には様々な人がそれぞれ役割を果たしながら、互いに支え合っているということを知ってほしいと感じました。

バスや電車、施設の中など、マナーやルールを協力して守ろうとしていました。周りの人の気持ちを感じ、行動している姿を見ていて、清々しい気持ちになれた社会科見学でした。

校外学習や子供たちの日々の学習活動と研究（総合的な学習の時間）は、密接に関わっています。研究主題「自ら課題を見付け、追究する児童の育成～体験的な活動を通して～」に迫るために、4回の研究授業を通して検証してきました。裏面に、研究主任の伊村有加教諭よりご報告させていただきました。ご覧ください。

「1月は行く 2月は逃げる 3月は去る」卒業まであと何日、進級まであと何日かなと、時の流れを感じる時期でもあります。日々練習に励んでいる本校の吹奏楽部の第39回定期演奏会を、3月2日（土）に予定しております。皆様のご参観をお待ちしております。

梅の芽も膨らみ始め、春の足音が近づいています。2月もよろしく願いいたします。